

道の駅

まちの広告塔を目指して

特集

道の駅 るもい



留萌市役所 政策調整課 地域おこし協力隊 佐伯 結

## 1. 留萌市について

留萌市は北海道北西部沿岸に位置し、土地面積 297.84 平方キロメートル、ハートの形をしているのが特徴的です。「汐が奥深く入る川」という意味を持つアイヌ語「ルルモツベ」を語源としています。

水産加工を基幹産業とし、近海で獲れるウニ、ホタテ、タコ、エビなど水産資源にも恵まれており、なかでも塩かずの子は生産量日本一を誇り、まちを PR するキャラクター「KAZUMO ちゃん」もかずの子をモチーフとしています。

日本海に沈む留萌の夕陽は「日本の夕陽百選」に選出されるほど美しく、荒波が押し寄せる海岸は「世界三大波濤」の一つに選ばれているなど、四季を通して様々な景色がうかがえる自然豊かなまちです。



写真-1 留萌の夕陽

## 2. 道の駅概要

国土交通省「道の駅」第 52 回登録において、「道の駅 るもい」が登録され、北海道では 126 番目の道の駅として、令和元年 7 月 11 日に開業しました。

住所は留萌市船場町 2 丁目 114 番地。JR 留萌

駅舎・留萌港・公園・山に囲まれ景観に恵まれているだけでなく、高規格幹線道路「深川・留萌自動車道」の終着地「留萌 IC」に隣接し、札幌・稚内・旭川の主要都市と留萌を結ぶ国道(231、232、233 号線)が集まる交通結節点に位置しており、市内外への情報・魅力発信拠点としてその機能を発揮します。

施設は駐車場 107 台、24 時間トイレ 13 器、道路情報提供モニター等基本的な道の駅機能に加え、都市公園機能も有しています。

ドッグランやパークゴルフ場、芝生広場があり、フリスビーやパークゴルフ用具等の他、フットサル等のスポーツ用具、幼児・児童等が遊べる電動車やボール・縄跳び、竹馬、冬季でも公園を楽しめるそりや歩くスキー、スノーチューブなどが無料で貸し出しされているため、観光客だけでなく地域住民も同じ時間を過ごせる空間となっています。

管理棟 2 階の展望スペースからは、留萌市が誇る夕陽や港が一望できます。



写真-2 管理棟 外観

### 3. コンセプトとターゲット

#### (1) コンセプト

都市公園として既に供用を開始していた「船場公園(るしんふれ愛パーク)」の立地条件と施設機能を活かし、留萌港や中心市街地に隣接した「都市型情報交流拠点」の道の駅として3つのコンセプトを掲げています。

- (1) 留萌の玄関口となる「広告塔」としての道の駅
- (2) 留萌ならではの体験できる道の駅
- (3) 都市公園が有する機能を発揮した道の駅

#### (2) ターゲット

##### ① 平日

周辺の観光施設においても観光客が少ない状況となっていることから、主婦層やファミリー層等のカフェ感覚での利用、地元の子どもの遊び場としての活用、屋外スポーツ団体やドライバーの休憩・軽食利用場所としての活用を想定しています。

##### ② 休日

留萌市を訪れる観光客の主な目的の上位は「ドライブ」「海水浴」であり、交通手段の大半が自家用車であることから、道路利用者の立ち寄り率を高めるための「目的型のコンテンツ」の開発を図る必要があります。周辺地域のみならず、札幌・旭川といった都市部とのアクセスの優位性を活かし、集客・地域への動線に繋げていきます。

### 4. 展開する機能

#### (1) 休む機能

基本的機能だけでなく、新たに妊婦向けの屋根付き駐車場設置の他、24時間利用可能な個室授乳スペースの確保、ばら売りおむつや液体ミルクの自動販売機の設置など、子育て支援機能も併せ持っています。

#### (2) 知る機能

交流人口の拡大・地域経済の活性化に向けて、ま

ちなかや観光施設などへの誘導による相乗効果を図ることを目的とし、管内や道北エリアも含め留萌地域のあらゆる情報を集積し、道の駅の各機能や留萌の魅力を発信しています。

施設内には「観光コンシェルジュ」が常駐し、観光プランの提案、市内施設や飲食店の紹介等を行います。

市内・管内の情報のほか、北は稚内、南は石狩方面など「オロロンライン」「北海道の左上」エリアの情報を幅広く発信しています。



写真-3 観光コンシェルジュ窓口

#### (3) 楽しむ機能・学ぶ機能

新たに施設を整備するのではなく、すでに公園施設で行われているイベントや体験学習の開催・拡充、実施メニューの充実等の環境整備を基本としています。

近年は感染症拡大により各地域イベントの開催が難しく、留萌市も例外ではありませんが、それ以前は「るもい呑涛祭り前夜祭」や「やん衆盆踊り」などの市民向けのイベント会場として活用されており、今後も、地域事業者や団体と連携しながら、公園機能を最大限活用した催しを展開していきます。

留萌市には、留萌産のオリジナル超硬質小麦「ルルロツソ」や「南るもい米」など、他地域に誇れる優れた加工品や農水産物があります。それらを活用した調理体験、古くからまちに伝わる「ニシン漬け」づ

くりなどの郷土料理体験、四季が色濃い留萌の自然環境や地域資源を生かした「学びの場」の提供など、子どもから大人まで幅広い世代向けに「留萌ならではの」体験イベントの充実を図っています。

#### (4) 買う機能

道の駅には、留萌市の特産品や道の駅限定商品などバラエティ豊かな商品が並ぶアンテナショップを開設しており、地域住民の集客にも一役買っています。

また、近隣市町村の新鮮な果樹・野菜とともに各農園で製造されるジャムやジュースなども人気を集めており、今後も留萌管内特産品のラインナップを充実させ、本施設から市内、管内へと誘導できるよう努めていきます。



写真-4 道の駅限定商品

また管理棟1階には、市内のお菓子屋さん「ルモンド菓子店」考案の「ナニコレ?! 自販機」が配置されています。同店で作られた道の駅限定の「固すぎるプリン」は自動販売機特有の購入時の振動に耐える硬さとなめらかな口当たりを実現されています。他にも農水産物の商品等、多数企業が協力して販売しており大変人気を集めております。

#### (5) 食す機能

市内には、寿司店をはじめとした留萌の魅力を発



写真-5 ナニコレ?! 自販機



写真-6 チャレンジショップ

信できる飲食店が充実していることから、道の駅にはレストランのような本格的な飲食施設はあえて配置していません。道の駅での短い滞在時間や市内へのまちなか誘導機能を考慮し、道の駅内では、地元食材を活用したテイクアウト品等を提供するチャレンジショップを設置しており、「にしん親子弁当」、「ハンバーガー」、「かまぼこ」、「タコザンギ」や、道の駅限定商品として考案された「かずの子ジェラート」など、様々なアイディア商品を販売しています。

こちらは天候等の兼ね合いで冬季期間の営業が難しく、夏季のみ開設しています。

#### (6) みなとオアシスとしての機能

上記5つの機能に加え、「港」を中心に観光や地域

住民の交流など、地域活性化やまちづくりを目指し地域振興の取り組みが行われる施設として令和2年7月26日「みなとオアシスるもい」（留萌市）が、全国141か所目・道内12か所目の「みなとオアシス」に登録されました。

## 5. 開業から5か月

一日500人程度と考えていた来場者数は開業2週間の粗推計で一日平均約3200人と、予測を大きく上回る結果となりました。コロナウイルスの感染拡大が懸念されオープンセレモニー等も縮小された中でこの数字は嬉しい反面、滞在時間や消費行動へのリンク、まちなか・管内誘導力、交通整備や施設収容力など多くの課題が見えてきました。

駐車場については、当初80台であった小型用駐車場は急遽70台分増設、身障者用スペースも2台から7台分確保、土日祝日は警備員を配置しました。現在は場内駐車車の動線、誘導看板等を随時設置するなど、さらに整備を進めています。

## 6. 今後の展望

今年度は予想以上の来場者数となった当道の駅ですが、今後も繰り返し足を運んでいただくとともに新たな集客を生み出すためには、これまでの施設機能を活かしつつ、道の駅全体を目的地化するための機能が必要であると認識しており、今後の数年間では、主に親子をターゲットとした遊び場やカフェなどが併設された屋内交流・遊戯施設の整備や、キャンピングカーをはじめとした車中泊専用駐車場の整備、肉や野菜とともに新鮮な海の幸と一緒に炭火で焼く留萌名物「浜焼き」を体験できる飲食スペースの整備などを予定しています。

また、来訪者に留萌市の魅力を感じ取っていただけるように、道の駅を拠点にまちなかに誘導する取り組みについても検討しているところであり、ハード・ソフト面ともに充実を図っていきます。

最後になりますが、道の駅るもいは2020年（令和2年）7月にオープンしたばかりの施設です。他

道の駅から学び、各施設との連携により北海道全体の交流や発展に貢献していければと考え、日々新たな課題やテーマを模索していきます。

地方移住などの動きが高まる昨今、留萌市を知るきっかけとして、改めて地元を学ぶ・郷土愛を深めるきっかけとして、さまざまな地域活性につながる「ゲートウェイ」としての顔をもった、地元民の誇る施設を目指します。



写真-7 将来的なイメージ図

佐伯 結（さえき ゆい）

留萌市役所 政策調整課  
地域おこし協力隊

